

付属資料6 総括（テープ起こし）

総括

吉本 圭一（九州大学 人間環境学研究院 主幹教授）

時間があと10分で、私のスライドは10枚ぐらいだと思いますから、ちょうど1スライドずつ話をすればいいかと思います。

最後の永田先生の質問ですが、日本のキャリア教育は、とりわけ高等教育においては訳が分かりません。キャリア教育という言葉は、本当はあまり使いたくありません。職業教育のベースとしてのキャリア教育と私は言いたいので、むしろWILをそのまま使いたいぐらいです。そういう意味では、初中等のキャリア教育とは考え方が違って当然なのです。初中等の場合は、学校段階のキャリアを促すものだけでも、高等教育へのキャリア教育は明らかに社会への接続を意識しないとできないはずだと思います。

（以下、スライド併用）

#2

もう一度キークエスチョンを五つリストしました。

#3

まず一つ目は、どのような議論があったかということ、エンプロヤビリティという共通の話がありましたが、WILのための適切なアプローチは複数でした。これは誰に聞いても複数だということだと思います。コーオプやインターンシップは核で、そのほかの部分でどこまで議論があるのかということは、そのほかの部分を実際にやっている人たちと対話しない限り、分からないと思っています。私は休学の専門家ではありませんから。私の卒論学生にはトライさせましたが、また、ボランティア活動の専門家でもないので、別の専門家と一緒に対話できないと駄目です。

#4

それから、ここが一番のポイントだったと思います。皆さんでだいぶ議論していただきましたが、立命館はトップ学生を狙っておられるようですが、九州大学はボトム層の学生を

どのように育てるかということに大変関心を持ってやっています。そういう意味ではインターンシップも重要なアプローチだし、もっと別のこともやらなければいけないと思っています。ラッセル・グループでのエンプロヤビリティへの関心はあるのかということが議論になりましたが、例えば資格枠組みの中で、共通の Learning Outcomes に基づく国家資格枠組みがあるときに、その方法論が違います。そこで、どのくらい違っても同じ答えにたどり着くのかという研究をこれからしなければならないと思います。ドイツも、アプローチは違うけれども共通の BA であるということです。これは非常にチャレンジングな状況で、われわれ研究者としてはうきうきする状況です。

メルボルンの六つに束ねた BA とプロフェッショナル MA モデルは世の趨勢で先端であるかということ、先ほど杉本さんが言われたように 5% です。それに対して、Work Integrated Learning を 25% 評価する、650 のコースを持っているビクトリア大学のケースがあります。いろいろ出てきたのは共通していますが、学生は何らかの WIL をやっていると思なされる。日本の場合は特に 2:6:2 の中で、トップにどういうアプローチをするか、全体にどういうアプローチをするか、ボトムにどういうアプローチをするか、この辺がある種洗練されていると思いました。九州大学も、トップに対してもボトムに対してもそれぞれの形でアプローチしていかなければならないと思っています。

イギリスにも職業経験のある学生がいて、ドイツも多くの人が入学前に職業経験を有している。優秀な学生にはプレイスメントよりもむしろ Task force で、PBL (Project Based Learning) をやらせている場合もあって、しかし同等にガイドラインとして設定されているということがあります。説明しきれませんが、これからいろいろ議論していきたいと思っています。

#5

要は、WIL というものは、Disciplinary Training と Employer and community needs に位置する、不思議なことでもないのですが、微妙な大切なものです。学校を出て、Disciplinary Training をして Outcome が出てくると理解するのがアカデミアですが、こちらの世界がもう一つあるということです。実は、アカデミアが見ているのはこちらの方ではないでしょうか。リサーチの方で、九州大学もトップ何十になりたいと言っているかもしれませんが、エンプロイヤーが見ているのは、コミュニケーションスキルだ何だと言っているけれども、要はこの辺りしか見ていないのではないかと。企業が本当にここから

ここを見て採用しているとも思えないのですが、それはこの辺りの対話がないからだと思うのです。その対話が、これから Disciplinary に行ってから動くということが、これから考えていく研究課題と思います。

#6

時間も限られていると思うので、時計を見ながら。従来の教育や、日本型インターンシップから WIL へということは追求に値します。どれぐらいうまくできるかは分かりませんが、何年かかるビジョンか、この辺はじっくり議論を対話していけばいいと思います。重層的な関与、とりわけコーオプ教員について宮川さんや中川さんもおっしゃられましたが、われわれは新しい関係者をもっと研究しなくてはなりません。

あまりこういうことを言っているのか分かりませんが、某研究大学では、最近非常勤をたくさん求めたようです。全学的には、なぜそれほどたくさん非常勤講師が必要なのですかと疑問に思ったそうです。それは、某専門職大学院のロースクールがあり、プレイスメントをやるために受け入れの人たちを非常勤として雇うのだということでした。しかし、非常勤講師にしなくていいでしょうと言って大議論をしたそうです。われわれは、もっと別のタイプの専門職があり得るということで、しかしその人たちも大切にすることなどを議論しなくてはならない時代に来ているのだらうと思います。そういう意味で、ぜひ京産大のコーオプ教員のモデルをまたしっかり勉強させていただきたいと思っています。

また、外部評価、社会の目線が重要です。それから、今日はあまり議論になりませんが、Faculty Development との共通理解。私も大学人として、上から言われたときに素直に従うかどうか怪しい大学人がたくさんいるのではないかと思いますので、その辺りの共通理解をどう作るかだと思います。

#7

コミュニティとのエンゲージメントは端折りたいと思います。この辺もあまり議論しきれなかったもので、後でもっとこれからわれわれ全体でプレッシャーをかけていきたいと思います。ということで、懇親会の人に話をしたいと思います。

#9

最後にまとめると、書こうとして書ききれなかったのですが、多様なアプローチを統合

的に扱うということです。違ったアプローチを一つのコンセプトで扱うという、何と難しい質問だろうと思います。また、多様な関係者が共通の目的のために取り組む。しかしそれはある種、新しいイノベーションでもあり、新しい進化でもあるのだと思いました。

#10

私は、今日は日本語で通しましたが、ここのスライドはチャンポンです。チャンポンというのはいいのではないかと思います。ミクスチャー、あるいはハイブリッドである。ハワイに行くと HAPA というそうです。要するに、いろいろなものを一緒にやるという、ハイブリッド、フュージョン、コミュニティ、インテグレーション、ホリスティック、いろいろな議論があろうかと思っています。

何とか 17 時までにとどりに着いたのではないかと思います。活発な議論をありがとうございました。これから懇親会があるので、そこでもう少し議論していただければと思います。さまざまな専門を背景として、今回のセミナーに参加された皆さまのいろいろな方向での対話を、これから進めていこうと思います。

#11

できればこちらからコンタクトさせていただいて、ほかの人にも e メール情報を紹介してよければ、そのようにご連絡ください。これが出会いの機会だろうと思います。Judie さん、Brenda さん、大変遠いところから何時間ものフライトでお越しいただき、ありがとうございます。限られた時間の中で素晴らしいプレゼンをしていただいたことに感謝します。

これは懇親会のときに言うべき話題ですが、スタッフの片山さん、江藤さん、川俣さん、それから九州大学の多くのトップの学生がいるので、またお見知りおきください。最後に、勝手な話をどんどんして訳すのが難しかったと思いますが、同時通訳の方にお礼を。

(事務局) 通訳の 3 名の方、ありがとうございました。*森*様、*森本*様、*香田*様、3 名に拍手をお願いします (拍手)。



Higher Education International Seminar
'Career and Vocational Education through Partnership with Industry and
Communities'

Saturday March 17, 2012, 16:45~17:00
@ Kyushu university

The Closing Remarks

吉本圭一, 九州大学
Keiichi Yoshimoto, Kyushu University

1

1. key questions

1. What are **suitable approaches of work- integrated learning** to support transition to work and social independence at higher education stage?
2. At higher education stage, **who needs work-integrated learning** most? How **inclusively and extensively** does a university offer work-integrated learning?
3. How should **we enhance and assure the quality** of work-integrated learning?
4. How do **employers and communities** comprehend the needs and the purposes of work-integrated learning on students' side and in communities and economical society? And how will they offer resources in **cooperation with universities** properly?
5. What are **the governments' role** to improve career education and specialized education through industry-university cooperation?

2

2-1. Suitable approaches of work-integrated learning for employability?

- WILの代表的なプログラム
 - コーオプ教育やインターンシップ
- WILの延長として
 - 教育課程のから学生の自主的な活動まで
 - コーオプ教育などの密度の濃い長期の活動から見学的な短期の活動まで
 - 報酬を伴う活動からボランティアでの無報酬活動まで
 - 職業・地域の現実的課題と密接に繋がる活動からバーチャルなコミュニケーション活動まで
- 多次元的な活動の広がりの中で、WILの機能をどう捉え、その機能的な等価物をどのように把握するのか

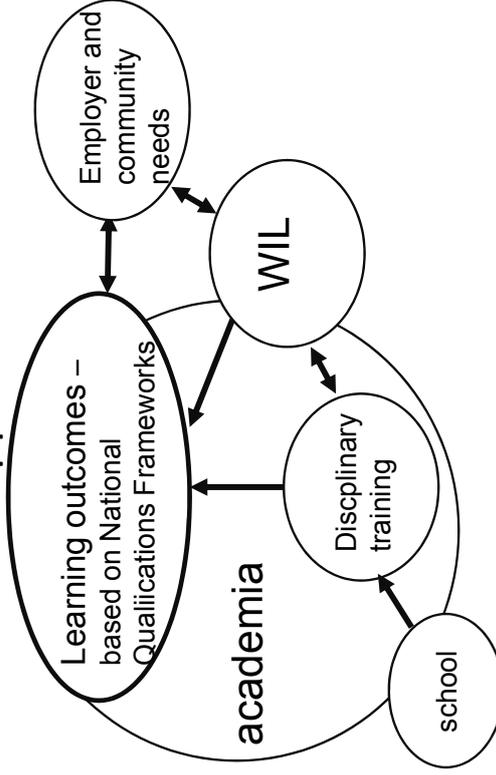
3

2-2. Students' needs for WIL and inclusiveness and extensiveness?

- Mission: 学術アプローチとは異なる固有のアプローチとしてのWIL
 - (英) Russelグループでのlearning outcomesとemployability?
 - (独) 総合大学 - 専門大学 (FH) - 職業アカデミー、共通のBA
 - (豪)メルボルン6-BA + professional IMAモデル-650courses-BA
- Students
 - (米)ほとんどの学生が何らかのWIL
 - (日本)学生の成熟(maturity) 問題~意欲の2-6-2導入WIL(京産大)
 - (英)職場にいる学生(part-time)~ユニバーサル化
 - (独)多くが入学前に職業経験を有している
 - インターンシップ機会がなければ、必要なければ他のWIL
- Strategy
 - 広範な専門分野を横断して
 - Holistic (VU)

4

2-2b. Common goals and different approaches?



5

2-3. Enhancement and assurance the quality of WIL?

- 従来の教育や日本型インターンシップからWIL
 - 重層的な関与 (北米COOP)
 - 企業の参画とともにコーオプ教授・コーディネーター
 - 卓越性モデル (CAFCEなどの認証評価) と包括モデル (Australia)
- 適切な教員及び関係者の関与
 - Northeastern U 主導の専門家育成 ~ 政府助成
 - コーオプ教員 (京産大)
- 評価 (assessment)
 - 外部者からの学生の学習評価 ~ 社会目線
 - 全学政策と Faculty/Department との共通理解

6

2-4. Dialog with and Involvements of Employers and communities

- 企業・地域関係者は、どう学生のWILの必要と意義を理解し、地域・経済社会にとってのWILの必要を把握できるか？
 - 必要や意義の理解において、職業統合的な学習に係る重層的な企業・地域関係者と高等教育関係者との対話
- 企業・地域社会は、WILへの適切な資源提供ができるか？

7

2-5. Governments' role

- Consensus building and guidelines
 - (独) Bologna プロセス → 独BA 導入 → NRW 州キーコンピテンシー、リベラル学習、プレイスメント
- Fund raising for higher education institutions
- Stimulating sustainable partnership building

8

3. New Challenges

- 多様なアプローチを統合的に運用する
 - Integrated management for diverse approaches
 - 異なる専門分野
 - とりわけ学術的vs.職業的、同じ到達目標
- 多様な関係者が共通の目的のために取り組む
 - 学外者とインターフェイス関係者の関与

9

4. New Innovations and Evolution

- Holistic WIL – Excellence in CO-OP
- Integration - Consistent
- Community (共通の価値を追究する場) ~ むすびわざ
- Fusion
- Hybrid - unity
- Hap Haole
- ちゃんぽん

10

活発な議論、ご参加ありがとうございました。

さまざまな専門を背景として今回の高等教育セミナーに参加された皆様のいろいろな方向での対話を展開させましょう！



yoshimoto@edu.kyushu-u.ac.jp

11

平成 23 年度文部科学省「先導的・大学改革推進委託事業」報告書
国内外における産学連携によるキャリア教育・専門教育の推進に関する実態調査
研究代表者 吉本 圭一
(九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門 主幹教授)

発行年月日 2012 年 5 月 31 日
発行・編集 吉本 圭一
〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1
九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門
Tel. 092-642-3126

